



「見たり、聞いたり、探ったり」No.306

通算 No.457

青 木 行 雄

天と地をつなぐ神の山「英彦山」 (大分県と福岡県にまたがる1200メートルの霊山)

福岡県と大分県にまたがる標高1200メートルの英彦山は修験道の霊山であった。

山形の出羽三山、奈良の大峰山と並ぶ、日本三大修験道の一つとして知られている。

修験の痕跡が残る英彦山では悠久の歴史を受けとめる、神秘的な雰囲気を感じる神の山であった。今でもその様子は十分にうかがえた。

私のふるさと大分県の耶馬溪には山国川という一級水系の川が中津市、周防灘の海に流れ込んでいる。この川の源流は英彦山で何かと恩恵を受けていた。小学生の頃兄につれられて英彦山へ登山した事をおぼえているが、この度機会があって、友人の車で80年ぶりに参拝し、神前に手を合わせた。

私の出した「芹洋子」さんのCDでも「美しき山国川」題名の歌詞に～雨の一滴英彦山から～と歌ってもらった、昔は修験道として大事な霊山であった。

国道500号線のまがりくねった山道に差し掛かると、にわかに光景が変貌する。空は広く、新緑がすがすがしく、空気が澄み、参道という気運がみなぎってくるが、この先の行きつく所に英彦山の神社・神様が鎮座する。

古来から神の山として信仰された霊山で、太陽神である天照大神の御子、天忍穗耳命が御祭神であることから「日の子の山」即ち「日子山」と呼ばれていた。始まりについては定かでないというが、鎌倉時代の「彦山流紀」には英彦山にこもり、厳しい修行を行う「修験者」が集い、集落を形成していたと記されているという。江戸時代の最盛期には修験者が3000人もいたようで、彼らが暮らした坊舎は800舎を数えたというからすごい。

英彦山には「四土結界」という考えがあったといわれている。三つの鳥居を境に四つの世界に分けられるというものである。下界と天界を隔てるのが、一つ目の鳥居、「銅鳥居」。ここから英彦山神宮奉幣殿



英彦山全図の地図



花駅からスロープカーにて約7分で
神駅に



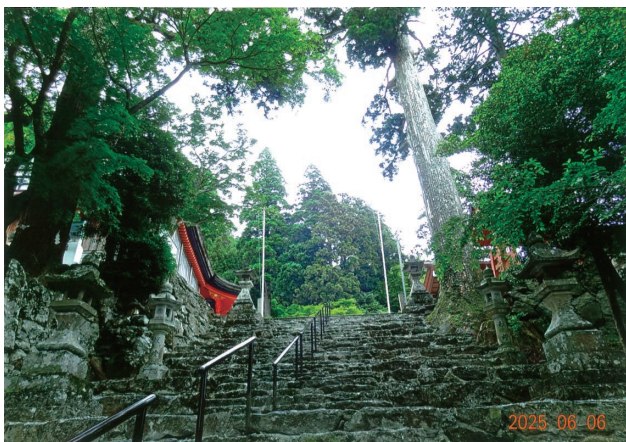
神駅まで7分で終着駅、神駅。



英彦山神宮奉幣殿と石の鳥居が見える。ここまでが仮の浄土と言われる。



この写真を見るとさすがに山岳の修験道の痕跡の残る風景を思わせる。



この石段を見ると何百年もの歴史を思わせる。修験道の道であろうか。



こんな杉の大木をあちこちに見かける。



昔はこの山道を何千人かの人達が参拝した参道である。



この建物が神社の社務所で宮司さんのいる事務所である。

のそばにある二つ目の鳥居「石の鳥居」までが、仮の浄土といわれていた。石の鳥居から先は修験者が厳しい修行を積むための場。三つ目の「木の鳥居」をくぐれば英彦山神宮の社殿(上宮)が鎮座する。特に山が錦に染まる季節は格別であるようだ。